

残響

花火大会の夜

人気のない公園に行った  
私はスーパーで買ったセットを  
彼はバケツを持って

打ち上げ花火を背に  
線香花火にライターを近づけ  
寿命を競う

私の勝利を喜びかけた瞬間  
口の中にはマルボロの味  
鼻の奥には火薬の残り香  
耳には連打のクライマックス

遠くから流れてくる歓声  
見えないスターマイン

恥じらいの導火線が燃え進み  
顔を上げることができず  
押し寄せる音だけが心の底に響く  
煙がすべてを隠す